

もどりばし
戻橋は一条通堀川ほりかはの上かにあり、安陪あべの晴明せいめい十二神将しんしやうを此橋下ここのに鎮め、事を行ふ時は喚こゑで是こゝを使ふ、世の人吉凶きちうを此橋ここのにて
占うらなふ時は神将しんしやうかならず人に託たくして告るとなん。「源平盛衰せいざい記きに中宮御産なかつみやみの時、二位殿にじうゐだん一条堀川いぢやう戻橋もどりばしの東あづまの爪つめに車を立させ
辻占つじうらなを問給ふとなん」又また三好清行みよしきよつら死する時、子の浄蔵じやうざう父ちちに逢あふため熊野葛城くまのかつらぎを出て入浴にんよくし、此橋ここのを過るに及んで父の喪さう
送おくに遇ふ、棺くわんを止とめて橋上はしの上に置おき、肝胆かんたんを摧くだき念珠ねんじゆを揉もみ、大小たうせうの神祇しんぎを禱いたひ、遂ついに咒力じゆりきだ陀羅尼たらにの徳とくによつて閻羅王界えんらわうに徹とおし、
父清行きよつら忽たち蘇よ生むす、浄蔵じやうざう涙なみだを揮なげ父ちちを抱かかり家いへに帰かへり、これより名づけて世人よ戻橋もどりばしといふ。是洛陽らくやうの名橋ななはしなり。